

佐世保市地域福祉・生活支援ネットワーク会議(第一層協議体) 開催議事録

日時	令和 4 年 9 月 13 日(月) 14:00～16:00	
開催場所	佐世保市社会福祉協議会 本館 3 階(佐世保市八幡町6-1) ※開催内容を動画で確認する場合は、 URL (https://youtu.be/2gLNtnvRywM) もしくは、 二次元コードからご視聴が可能です⇒	
開催内容	議事 1. 開会 2. 議事 (1) 第一層 SC からの取り組み報告 ①令和3年度生活支援体制整備事業実績報告 ②令和4年度生活支援体制整備事業活動報告 ③第二層 SC 活動報告「さわやか・しかまち」 (2) 佐世保市社会福祉協議会からの取り組み報告 (3) 協議事項「継続可能な生活支援体制の維持について」 (4) その他: 令和4年度佐世保市地域支え合いフォーラムご案内 3. 閉会	
出席者	加藤常任理事(佐世保市老人クラブ連合会)、永島副会長(佐世保市民生委員児童委員協議会連合会)、川内野副会長(佐世保市地区福祉推進協議会)、樋口保健福祉部代表(中部地区自治協議会保健福祉部会)、七種課長補佐・大石主査・岩本主査・福井主事(長寿社会課)、小川課長補佐・脇坂主任主事(保健福祉部保健福祉政策課)、川尻氏(佐世保市社会福祉協議会)、田中生活支援コーディネーター(佐世保市第二層生活支援コーディネーター鹿町地区担当)成富生活支援コーディネーター(佐世保市第一層生活支援コーディネーター)	
会議録	【佐世保市第一層生活支援コーディネーター 成富】 本日は大変ご多忙の中、令和4年度第1回地域福祉・生活支援ネットワーク会議(第一層協議体)へご参加頂きありがとうございます。本日は、地域の人と人とのつながりを大切に、誰もが安心して暮らし続ける事ができる地域共生社会を目指し、本市の地域福祉を一層推進する為に、会議を開催させて頂きたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い致します。 ・資料確認 (1) 第一層 SC からの取り組み報告 ①令和3年度生活支援体制整備事業実績報告(成富 SC) 生活支援サポーターと地域の困り事のマッチング件数は令和 2 年度では 82 件に対し、令和 3 年度は 336 件と 410%の増加となっております。 生活支援サポーター養成者数は約 600 名、有償ボランティア団体 7 ヶ所、 外出 支援サービス 3 ヶ所の整備を行いました。 ②令和4年度生活支援体制整備事業実績報告(成富 SC) 多様な世代の担い手確保の為に、国際大学での講話、佐世保市看護学校での生活支援サポーター養成講座の開催を実施しています。 また、高齢者の為のスマートフォン活用講座を、やすらぎ荘で実施し、オンラインでの繋が	

りや介護予防活動の推進を図る取り組みを行っています。

③第二層 SC 活動報告「さわやか・しかまち」(田中 SC)

鹿町地区では平成 30 年 9 月から第二層生活支援コーディネーターが配置され、協議体(支え合い推進会議)自治会・民生委員・老人クラブ・社会福祉法人等で構成され、現在まで11回開催しています。

目指す地域像は、「活気のある鹿町、住みたいまち、福祉のまち」として、ご利用者に優しく若い方の働き場所の創設の実現に向けて活動を行っています。

まず最初に、ワークショップを開催し、地域で暮らす中での困りごとや不安について、協議を行った結果、買物、移動についての意見を多く頂きました。

意見を元に、アンケートを行った結果、車の送迎ボランティアがあったら利用するという方が 43 名いらっしゃる事がわかり、1 回あたりの料金は 250 円から 1,000 円未満という事が妥当であることがわかりました。

鹿町地区の課題解決に向けて、組織を立ち上げる為に生活支援コーディネーターが行ったことは、核となる人物に交渉を行い、立ち上げに賛同を頂いた後、担い手を確保する為に生活支援サポーター受講者に有償ボランティア勉強会を開催しました。

その後、ニーズ調査を行い、事業計画書、必要な資金調達方法、事業の見通しを作成し、組織役員へ提案を行い、承諾を得られました。

社会福祉法人の空車両を利用した買物外出支援に向けて相談を行い、車両の貸出、燃料費提供の承諾を得られました。

協議体でアンケートを元に関係者に提案を行い、事業を進める事の合意形成を図り、組織の立ち上げを行いました。

このようにして、令和 3 年 12 月から生活支援有償ボランティア団体「さわやか・しかまち」の活動として、窓掃除、室内の掃除、見守り、庭の剪定、草取り、葉取りを開始しました。

令和 4 年 6 月 3 日から買物外出支援を開始しております。

質問(加藤常任理事): 自地域でも移動支援サービスを開始しようと検討したが、道路交通法、タクシー会社との兼ね合いもあり、話が進まなかったが、どのような取り組みを行われたか?

回答(田中 SC): 運送に対する対価として利用料金を頂くのではなく、家事支援と一体型の支援を行うという形で利用料金を頂いており、運輸支局に確認を行った所、可能との返答を頂きました。

補足(成富 SC): 家事支援との一体型支援での利用料金の場合、あくまで家事支援が主となり、送迎は従となる形でのサービス提供となります。また、送迎のあるなしで利用料金の変更を行う場合は、運送の対価と見られる為、送迎あるなしに関わらず、同一の利用料金設定を行う必要があります。

地域で送迎を伴う外出支援サービスの実施を検討する場合は、ぜひ生活支援コーディネーターにご相談いただけますと、立ち上げのご支援を行いたいと思っておりますのでお気軽にご連絡頂ければと思います。

参考資料: 国土交通省

「道路運送法における許可又は登録を要しない運送の態様について」

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/manager/pdf/H30/04.pdf>



(2) 佐世保市社会福祉協議会からの取り組み報告

①地域主体により新たな生活支援サービスへの支援

地域の福祉課題の解決に向けた取り組みを推進する為、補助金を交付し、住民同士の支え合い活動及びボランティアによる生活支援サービスの実施を推進しています。

金額は 1 地区の福推協などの圏域につき、総額 200,000 円を上限とし交付します。

②地域共生社会について(ふくし教育の取り組み)

地域共生社会を実現する為に必要な取り組みとして、ふくし教育を実施しています。アンケートを実施し、地域の実情の把握に努めるとともに、ふくし教育実践指針を策定し、実践を行っています。

小中学校、企業と連携を行い、福祉教育を実践し、令和 4 年 12 月には、市民を対象としてふくし教育推進フォーラム「佐世保地域支え合いセミナー」を実施予定としております。

(3) 協議事項「継続可能な生活支援体制の維持について」

成富 SC: 佐世保市では要支援、事業対象者の方が利用する、ヘルパーによる支援は「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」の中の訪問型サービスとして実施しています。

佐世保市は其中で、訪問介護(現行の訪問介護相当)、訪問型サービス B(住民主体による支援)を実施している状況です。

生活支援コーディネーターは、訪問介護(現行の訪問介護相当)の担い手の高齢化などによる減少で、サービス提供を継続する事が困難になる事も想定し、多様な支え合いを推進し、訪問型サービス B 等、住民主体の取り組みを推進しています。

ですが、現行の訪問介護相当の訪問介護の受け皿の現状は一体どうなっているのか、佐世保市訪問介護事業所連絡協議会の森田会長からお話を頂きたいと思ひます。

森田会長: 会員の 26 訪問介護事業所にアンケートを実施し、22 事業所から回答を頂いた内容の報告を行いたいと思ひます。

職員の平均年齢は 58 歳となっており、当事業所の平均年齢は 62 歳で、最高齢職員は 78 歳でした。

2019 年から 2021 年の間の職員の増減について、減った事業所は 11 事業所(50%)、増えた事業所は 3 事業所(14%)、変わらない事業所は 8 事業所(36%)となっております。正社員の数はい変わりませんが、登録ヘルパーの数が高齢による退職などで変動しています。

若い方は、子育てがひと段落した後、進学費用などまとまった費用を得たい場合は、施設などに転職する方もおられます。減った人数は 22 事業所でマイナス 18 人となっております。

生活援助のサービス提供状況について、人員不足で断る事があるが 12 事業所(54%)、人員不足で提供不可が 3 事業所(14%)、提供可能が 7 事業所(32%)となっています。生活援助のニーズは多くありますが、人手不足及び身体介護に比べて単価が低い為に、身体介護を優先する事業所もあります。

現在の職員の充足状況では、概ね充実が 1 事業所(4.5%)、ほぼ充実が 3 事業所(13.6%)、やや不足が 10 事業所(45.5%)、不足が 8 事業所(36.4%)となっており、生活援助を受け入れる事業所が少なくなっているのが現状だと思ひます。

2025 年に職員は充足しているかという質問については、充足困難と答えた事業所が 90.9%となっており、人で不足に不安を抱えている事業所が多いと思ひます。

多様な担い手、サービスの提供が必要と感じる事業所も 90.9%となっており、連携の必要性を感じている所が多くあります。

佐世保市訪問型サービス利用者将来予測として、2021 年から 2040 年までは横ばいの利用人数が想定されており、現状のままでニーズを受け入れ続ける事が出来るのか、将来的には困難になる事が予測されます。

コロナ禍の状況で、感染症対策を実施していますが、ご利用者に感染させてはならないという緊張感の中で、サービス提供を行っている状況です。

<情報共有>

- ①所属団体で行われている、見守り、ゴミ出しなど、生活支援活動の取り組みがあれば、教えてください。可能であれば、令和3年度の実績などご記入をお願いします。
- ②所属団体以外での生活支援の取り組みを、把握する為に行われている事を教えてください。また、参考資料や情報元などがあれば、ご記入をお願いします。
- ③企業等が実施している、地域における公益的な取り組み(社会貢献活動)の情報があれば、ご記入ください。(企業名、活動)

佐世保市老人クラブ連合会(加藤常任理事)

①シルバーヘルプサービス事業を実施しています。市老連所属の会員が、一人暮らしや虚弱な高齢者及び寝たきりの老人宅を訪問し、安否確認、話し相手、その他家事援助ならびに軽易な介護・買い物手伝い等により、会員自身の生き甲斐づくりと介護を受ける高齢者やその家族の負担の軽減を図り、有合い活動を実践する事を目的としています。

訪問対象者は、市老連会員以外でも希望があれば可能としており、一人暮らし(病弱で注意を要するもの)、高齢者世帯(夫婦どちらかが該当者)、寝たきり高齢者、その他(高齢者で訪問を希望する方)となっています。

活動内容は、食事の世話、洗濯・清掃、安否確認、相談・助言、買い物手伝い、その他で、2人一組での活動を基本としており、現在は安否確認及び話し相手が主体です。

令和3年度の実績として、活動クラブ数は全 204 クラブ中 40 クラブ、活動者数は、男性 69 名、女性 162 名の合計 231 名が行っています。訪問延べ回数は 11,658 回で、被訪問者数は、一人暮らしが 274 名、高齢者世帯が 140 名、その他 23 名の計 437 人となっています。

佐世保市訪問介護事業所連絡協議会(森田会長)

①ゴミ出しについて、要支援の方の3～4割の方が利用されています。要介護の方の1割に満たない方がゴミ捨てを利用されている状況です。ゴミ出しは介護保険をご利用されている方でもサービスを必要とする方も多いのではないかと思います。

佐世保市長寿社会課(大石主査)

①成富 SC からの報告の通りとなります。

②SC 運営の地域別の社会資源情報をまとめた包括ケアガイドマップ、包括支援センター作成の社会資源情報、地域の活動に対しては補助金を支出しています。

③電気組合の独居高齢者ボランティア事業(電気配線のチェック・修正、電球交換、電気製品周りの掃除など)、国有財産の有効活用(車が入らないなど未利用国有地の管理を地域などに委託して、有効活用を促進するもの)があります。

樋口保健福祉部代表(中部地区保健福祉部会)

①私が活動を行っている名切町では、7月に中部地域包括支援センターと連携し、住民アンケートを実施し回収率70%となり、ゴミ出しの手伝い等のニーズを把握し協力についても検討との声を頂きました。

100歳体操を7年前から実施し、20名程参加していましたが、コロナ禍の状況となり、参加者は12～13名となりましたが、参加者とは週1回情報交換を実施しております。

中部地域包括支援センター(代読:成富 SC)

①見守り、声掛けが 3 件、生活支援が 4 件、ゴミ出しが 5 件となっております。

③西海みずき信用金庫では月に 1 回にじカフェ、ハッピーラフ小佐世保では車の提供、ゴミ出し、買い物支援を実施されています。

佐世保市地区福祉推進協議会(川内野副会長)

①私の地域の吉井町では、立木 SC が中心となり、有償ボランティア活動を昨年 12 月から開始し、草刈りや剪定、ゴミ出し、家具の移動、片付けなどの支援を開始しました。週 2～3 件ほど依頼があつています。支援者は 70 歳代の方が多く 10 名ほどの方が常時活動を行われています。

現在、個人への外出支援を実施する為、個人の車を活用した移動支援サービスとして、別組織「よしいこ会」の立ち上げを 8 月 27 日に行い、これから活動を進めたいと思っています。

佐世保市民生委員児童委員連絡協議会(永島副会長)

①役員が所属する 5 地区の取り組みをお伝えします。民生委員児童委員として委員それぞれが日頃の安否確認のための訪問活動や生活支援活動を行っています。特に一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の困りごとはゴミ捨て、買い物、草取り、通院の付き添い等です。

また、台風時における戸締りや避難場所への送迎については、近所の方や地域の消防団と連携しています。避難所への訪問もコロナ感染数の事も考えて今回は失礼しました。

早岐地区民児協では「地域支え合い推進協議会」において地域の困りごとを把握するためモデル地区を選定し、アンケート調査を実施した結果、買い物の不便さが多かったので、当該町内会を通じて「ララ花高」へ要望書を提出し、現在週 1 回金曜日の買物送迎が実現しています。今後は他地域についても同様のニーズ調査を行い、困りごとの解決に協力したいと考えています。

活動実績として、訪問回数は 106,328 回で 1 人月 13 回、地域福祉・自主活動は 44,230 回で 1 人月 6 件、支援件数は 35,320 件で 1 人月 5 件、日常的支援は 19,945 件で 1 人月 3 件となります。

②西天神町公民館福祉厚生部では、地域を対象として「西天神きずな」を開設し、サービスを行っています。

また、若葉 3 組公民館では「生活支援えがお」を開設し、買い物、網戸の修理、木の選定、病院の付き添い等、月 1～2 回まで無料、不燃物付き 1 回無料、30 分まで 250 円で実施しており、立ち上げて 4 年目の取り組みとなります。

③早岐地区のララコープ花高の週 1 回金曜日の買物の送迎があります。

佐世保市第一層生活支援コーディネーター(成富 SC)

皆さんの取り組みをお聞かせ頂き、情報交換できたことで、今後の地域での支え合いの推進の一助になればと思います。

また、所属されている団体のメンバーの方々が、佐世保市での取り組みを学び、実践者と繋がり、自分の地域でも活動を推進する事を目的としたフォーラムを令和 4 年 11 月 17 日に Youtube でライブ配信を行う予定としております。また、地区コミュニティセンターや公民館などでも随時上映会を実施し、地域支え合い活動の推進を図りたいと思います。所属団体の皆様へ情報共有を行って頂けると幸いです。

(様式 2)

佐世保市長寿社会課(七種課長補佐)

県外で働く家族から、冷房のスイッチを朝入れて欲しいなど、訪問介護を利用するまでもないが支援を希望する相談があり、長寿社会課から地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、生活支援サポーターへと関係機関をいくつも経由してサービスに繋ぐケースが増えており、県外に住む家族がスッとサービスに繋がられる仕組みを検討できたらと考えています。

3. 閉会(佐世保市社会福祉協議会 川尻)

本日は大変貴重なご意見を頂き誠にありがとうございました。皆様から頂きました情報や、ご意見を元に、社会福祉協議会と生活支援コーディネーターが共に、地域づくりの推進を図りたいと思っております。

大変ご多忙の中、最後までご参加頂きまして誠にありがとうございました。